FUKUI HAPPINESS 福井県

来る人も 住む人も しあわせ福井

福井の幕末明治　歴史秘話

＜第16号＞

平成28年8月31日発行

幕末福井が舞台となった水戸天狗党事件（後編）
～非情な処分の裏側に慶喜の悲痛な思い有り

一橋慶喜が天狗党追討軍の総大将となったことから事態はクライマックスを迎えます。当時、慶喜は禁裏御守衛総督という京都を警護する役職についており、天狗党が京に近づけば討伐せざるをえない立場にありました。

この時、福井藩を含む諸藩は幕府の命により第一次長州征伐に多数の兵を割いていたことから（福井藩主、**松平茂昭**は副総督として藩兵3千7百人を率いて豊前に出陣中）、慶喜は自ら朝廷に願い出て、加賀藩、会津藩、桑名藩等他藩の兵4千人を従えて討伐に向かいます。中でも主力となったのが加賀藩で、敦賀の葉原に陣を敷き、天狗党と対峙、その交渉窓口となり、同藩の軍監（軍の責任者）**永原甚七郎**が**武田耕雲斎**と交渉を行っています。

「水戸天狗党の福井県内行程」　「図説　福井県史」より

一方、福井藩の家老で府中（武生）城主、**本多副元**、鯖江藩主、**間部詮道**は、天狗党殲滅の方針を固め、自領に通じる峠を厳重に封鎖し、天狗党が敦賀方面に進路を変更するとそのまま追撃に入りました。当時の福井藩には、安政の大獄で春嶽が隠居に追い込まれるなどしたため、幕命を実直に守ろうとする意向が強くある一方で、親交の深かった水戸藩の家臣が起こした事件であり、積極的に動けないといったジレンマを抱えていました。

頼みの綱の慶喜が天狗党追討軍の総大将であることがわかり、包囲の環が迫って行く手もふさがれたため、追討軍による総攻撃直前の12月11日、天狗党一行823名はやむなく敦賀の新保で降伏の道を選びました。降伏した823名は初め加賀藩に預けられ、丁重な扱いを受けましたが、幕府に引き渡された後は、肥料となる鰊（ニシン）粕を貯蔵する蔵16棟に送られ、罪人として扱いを受けました。その内353名は形式的な取り調べを受けて斬罪となり、1865年（慶応元）2月、敦賀市松島町の来迎寺境内で刑に処せられました。残る約470名も遠島・追放・水戸渡し・寺預け・江戸送りとなり、水戸で始まった天狗党の乱は、敦賀で終息しました。

松平春嶽は、動くに動けなかった福井藩に代わりに活躍した加賀藩の働きに感謝し、翌1865年（慶応元）正月3日、使いを金沢に送り謝辞を述べています。また明治に入り、自らの回顧録「逸事史補」の中でこの事件について触れ、慶喜が天狗党に対し、かつての部下ながら厳しい処置を取ったことについて、「武田らは….ああかわいそうであった。」「慶喜公が（私に）言われるのは、『私がもし春嶽さんであったならば寛大な処分ができて、（彼らは）禁錮ぐらいで済んだだろうが、実に気の毒であったことしきりである。』」と記し、前水戸藩主**徳川斉昭**の子であった慶喜が身内であったが故に、彼らにより厳しく接しなければならなかった背景を説明しています。

～幕末ふくい歴史紀行～　［ニシン蔵（水戸烈士記念館）］

・天狗党浪士が収容されたニシン蔵16棟のうち、1棟が昭和29年の秋、敦賀港築港90年祭を記念し、市内松原神社境内に移築されました。現在は水戸烈士記念館として使用されています。松原神社は彼らを祭神として祀った神社です。境内の一角には梅の木が多数植樹されていますが、これは浪士たちにちなんで水戸から献木された偕楽園の梅です。この縁で敦賀市と水戸市は姉妹都市になっています。
（北陸自動車道・敦賀ICより 車で約13分JR敦賀駅より コミュニティバス「松原線」で約10分「松原公園口」停留所下車 徒歩約3分）

ニシン蔵（水戸烈士記念館）
（福井県敦賀市）

★お知らせ　由利公正紹介映像「民富めば国富む」を公開しています。
・幕末明治期に活躍した本県出身の偉人、由利公正の魅力や功績等を県内外に紹介する映像を制作しました。YouTube内で「民富めば国富む」と検索いただければ映像が表示されます。是非、ご覧下さい。

（発行者）福井県　　（問合せ先）福井県観光営業部ブランド営業課　萩原、前田　☎ 0776-20-0762